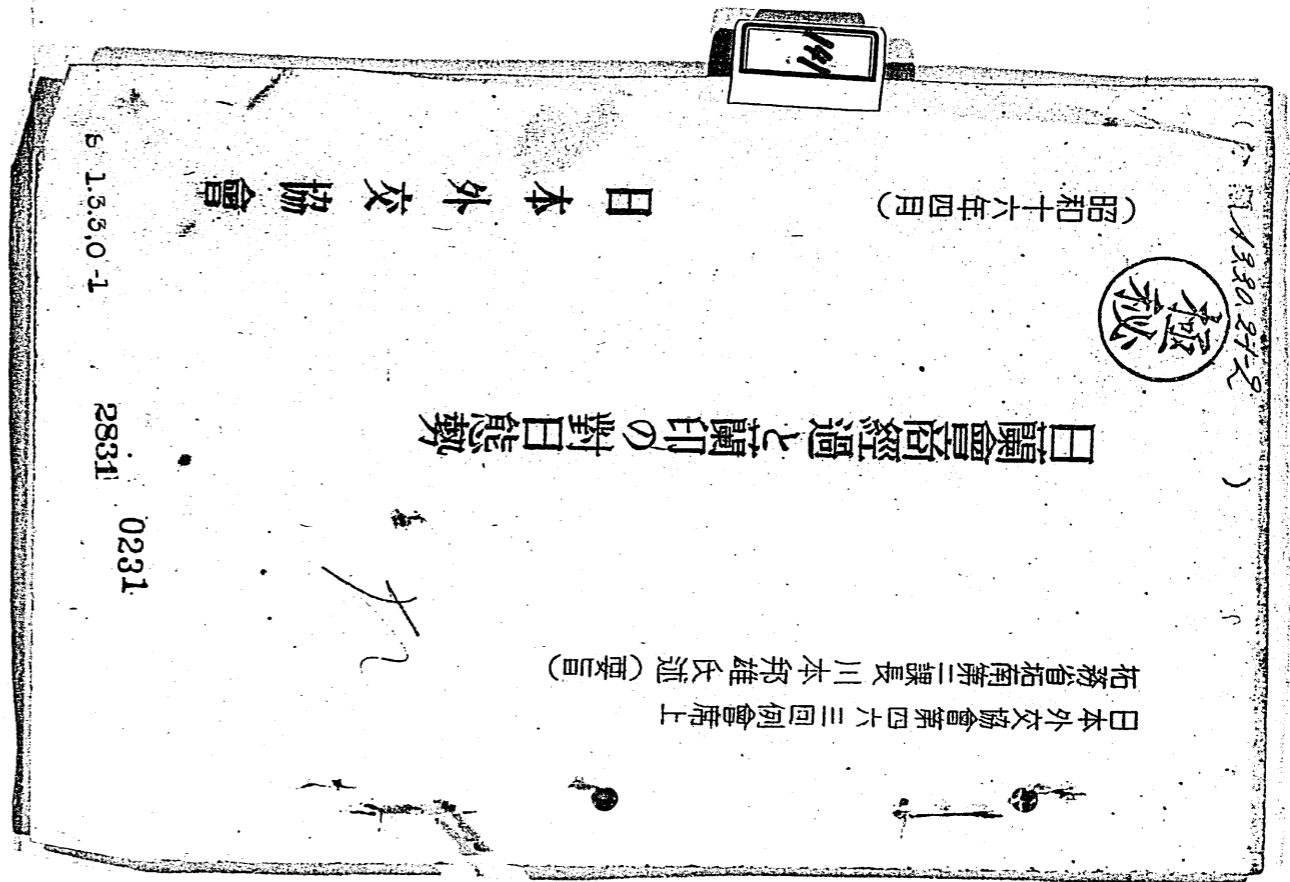


REEL No. A-0364



お断り

本稿は招務省招商局第二課長川本邦雄氏が本協會例會に試みられたる講演の要旨で目下進行しつつあるバタグアイ會商を主として日蘭關係に縱横のメスを擇ばれたるものであるが、事機密に属する事多く、殊には講演者の身外病、公表し得ざる性質のものなるに依り、少部を限定して複製し送附査局に備ふる事とせり。

昭和十六年四月
日本外交協會調査局

02332
2832
B 1.3.3.0-1

目次

前言——川本一家言……………

第一 日蘭會商の経過……………

一 「小林交渉」の外貌……………

 a 我が使節團の性格……………

 b 蘭印側陣営と資格……………

 c 石油問題先議方針……………

 d 三國同盟の興へた波紋……………

 (折謂スラビエタナ會談の真相)

 e 蘭印の會談指導方針三則……………

 f 小林使節歸朝の後……………

 g 買油協定候補印と内容……………

 h 蘭印側會商打切を提議……………

02333
2833
B 1.3.3.0-1

第二 「芳澤交渉」に移りて……………

一 豎々たる大使節振り……………

二 我方提示の要求概要要綱……………

 a 入國企業に関する問題……………

 (日本人醫師開業の手續等)

 b 交通、娯樂、貿易の要求……………

三 蘭側の回答と對案……………

 a 根本に於て意見相違……………

 b 経済協定に三項の建前表示……………

 c 次で持出した對日三項目……………

四 俄然起つた二大障礙……………

 a その一は東亞共榮圈の解釋……………

 b その二は折謂「大橋次官の談話」……………

2834
B 1.3.3.0-1

第五 結論 (不退轉の壯を定めよ) 六四

(目次終)

第五 會商進行の状況 三七

 a. 入國企業問題の討議 三八

 b. 枝葉末節にこだわる 四二

 c. 函った樂觀的放送 四四

第三 蘭印の對日態度 四五

 一 拔擢力發動の一步前まで頑張る 四五

 二 目に餘る備日行急擧出 四七

 三 日本人への取締役に嚴重 四九

 四 何故の對日警戒か 五〇

第四 最近の蘭印の動向 五二

 一 國防強化の物々しき 五二

 二 英の最後勝利を信ず 五五

 三 宛然英米の勇領 五八

 四 独逸へは極端な對抗態度 六一

B 1.3.3.0-1 2835-0234

B 1.3.3.0-1 2836

個人の印象であり、観察であり、意見でありまして、これは決して日本代表部のそれでもなければ、日本政府のそれでもなければ、また拓務省のそれでもない之御承知願ひたいのであります。そこで、本日のお語は大体三つの部門に分けて申し上げますが、第一は日蘭會商の今日までの経過について、第二は蘭印の日本に對する態度について、第三は最近に於ける蘭印の動向の主なるものについてであります。

第一 日蘭會商の経過

最初に日蘭會商の今日までの経過についてであります。これはまた三期に分けて申し上げます。第一は小林使節の赴任から歸朝までを第一段とし、次は小林使節の歸朝から芳澤全權の着任までを第二段とし、最後に芳澤全權の着任から今日までの状況を第三

B 1.3.3.0-1 2838

日蘭會商経過之蘭印の對日態勢

拓務省拓南局長 川本邦雄氏述(要旨)

第二課長

前言——川本一家言

只今御紹介を戴きました通り、私は今回の日蘭會商に際しまして、當初小林特派使節の隨員として蘭印にお伴をいたし、引續き芳澤全權の下に於て會商事務に携つて居りましたが、先般本省よりの命令に依つて歸朝をいたしました者であります。本日この日蘭會商を中心として蘭印の最近の情勢を語せといふ機會當事者のお語でまかり出た次第であります。就きましてはお語を申し上げる前にお断りを申し上げたいと思ひますことは、以下私のお語申し上げますことは、總て川本

B 1.3.3.0-1 2837 0235

三段として申し上げます。

一、小林次次の外貌

小林使節が赴任されてから辭朝までの事柄につきましては、艦か警備會に於かれましても當時の状況を視察された松本忠雄代議士から詳細にお話があったやうでありまして、可なり重複を致す点もあらうかと存じます。順序として置初からの状況を極くかいまんで申し上げます。

二、我が使節團の性格

最初に蛇足を添えるやうであります。我が使節團の性格についてであります。は、今回の會商に参りました我が使節團の性格についてであります。

0236

2839

E 1.3.3.0-1

日本と蘭印との關係につきましては、今日のやうな世界の情勢並に東亞の事態に直面いたしました。その政治的關係について相當考慮を要する問題があると思ふのであります。今回の會商に當りましては、左様な政治的問題を論議することなく、單に兩者の經濟關係についての妥協を進め、こつこつと明かになりまして、今回の使節團は經濟使節といふことが明確にせられたのであります。この点につきましては蘭印側では特に重点を置いておりました。小林使節が最初に蘭印總督に會見せられた際になつても、蘭印總督が今回の會商は純經濟問題に限られるべきものであつて、日蘭間の政治關係について論議すべきものではないといふことを強調いたしましたのであります。その後蘭印側の各代表は固より、また蘭印に於ける各言論機關も口を揃へて今回の日蘭會商は純然に經濟的問題に限られるべきものであるといふことを明にいたし、政治問題に及ぶることとを極力避けようとする態度が見えたのであります。然し乍ら單

2840

E 1.3.3.0-1

に經濟的問題を討議すべき會商とは申しながら、これを昭和九年の

日蘭會商に比較いたしますと、そこに非難を發露があることと認

められます。それは前回の會商に取上げられたのは、主として

通商貿易の問題でありましたために、これに参りました政府

の官吏も外務、大藏、商工の三省のみでありましたが、今回の會商

に於きましては、總ての經濟問題が採上げられる極めて廣い程

度會商と相成りましたために、参加いたしました官吏も内閣から

招務の各省で、今日蘭印關係に於て何等かの折衝事項を有する各省

が擧げてこの會商に参加いたしましたわけでありまして、昭和九年の日

蘭會商と、今回の日蘭會商との日本側の代表部の構成の内容を見ま

すれば、そこに可なりの開きがあることを察解出来るのであります。

斯く日本側が豊富に陣容を以て會商に臨みましたことは、蘭印側と

しては可なり頭痛の種であつたやうであります。特に陸海軍の現

0237

2841

E 1.3.3.0-1

役軍人がこの會商の隨員として参加いたしましたことについては、

彼等は可なり之を氣に病んで居たやうであります。

皆て經濟使節一行であります。御承知のやうに九月十二日に蘭

印の首都バタビヤに到着いたしました。當時の様子は既に御承知で

あらうと思ひますが、初めこの船は九月十一日に着く予定となつて

居つたのが、一日遅れました。この一日遅れたことが蘭印側

をして日蘭會商に對する準備を間に合はせることに相成つたのであ

りまして、諸般の事務上の準備は勿論のこと、肝腎要の蘭印側の

首席代表決定も漸く十一日に至つてその強令を見たやうな次第であ

りました。こゝで日本側の陣容に對するオランダ側の陣容をざつと一瞥いた

り、蘭印側の陣容と資格

E 1.3.3.0-1

2842

し、協議をする、それを共同コミニケの形で発表したいが、それ日本側は了承して呉れないか、こういう提案がありましたので、中央の指示を仰いで使節到着後数日を経て初めて我が方はフアン・モイクが首席代表たることを継承したやうな次第であります。このフアン・モイク経済省長官を首席代表として、第二席に司法長官のアント・ホーフエン、第三席に會商の立役者であります経済省通商局長のフアン・ホークストライテンを置いたのであります。その機工人大衆の要望がありまして、今回の會商は単にオランダ人の官吏を以て蘭側の代表陣を構成することは土人の利益を無視するものであるといふので、文部省の高級官吏をして居ります土人出身のシヤツヤミン・グラットといふ人を代表に加へ、更にその後援が方の陣営に對應するために陸海軍、或は土木省その他の関係官を極力同または随員として参加せしめ、蘭側の代表陣が整ったのであります。

8 1.3.3.0-1

2844

しますと、首席代表としては経済省長官フアン・モイク博士を任命したのであります。我が國から現職の國務大臣が使節として参加したい、出来れば總督、それが無理であれば副總督を首席代表にせよといふのが我が方の要求でありましたけれども、蘭側は只今申しますやうに使節一行到着の前日、九月十一日に至つて経済省長官たるフアン・モイクを首席代表とすることに決定をいたしました。この問題は使節到着後も急には解決いたしませんで、多少の経緯があらつたのであります。隨つて十二日使節のバタヴィア到着の際に出迎へましたフアン・モイクの資格は、日蘭會商に於ける首席代表としてのでなくして、蘭印政府を代表して出迎へたのであります。この問題が可なり紛糾することを豫想いたしました蘭印側は、それでは自分の方から自發的にこういうことを言明しよ、それは今度の會商についての重要な問題については、總督が直接使節と意見を交換

8 1.3.3.0-1

2843

0238

は總督を公式訪問せられまして、今回の蘭印訪問の使命、また日蘭兩國關係の將來について種々重要な意見を交換せられました後、特に日本側としては石油問題に重点を置いてゐるのであるから、この問題を先議するといふことを明確にせられ、その後蘭側代表とも折衝せられまして、石油問題を先に取上げてこの問題は日本側は主として向井代表がその衝に當り、蘭側は政府筋としてはフアン・モイク経済省長官、具体的、技術的問題については蘭側は關係會社當局がその交渉相手になるといふことが定められました、この行方方によつて交渉が開始せられたのであります。

この石油問題を先議するといふことについては、一應は蘭側も該承した形でありましたが、漸次交渉が進むに伴ひまして、どうも日本側の蘭印に要求するところは石油問題だけではないやうだ、石油問題も解決した後で更に他の要求を出されるといふことで蘭印としては困る、であるからこの石油問題が解決する前に他の一般的要求

8 1.3.3.0-1

2846

借て交渉であります。この交渉の行き方につきましては、小使節はバタヴィア到着の上既に燃料問題を携へ現地に到着して交渉の第一歩を踏出して居りました向井民間代表とも協議を進め、向井代表の今日までの交渉をして阻礙するやうなことは成べく避けた。出来るだけ向井代表の交渉を進捗せしめたい、こういう氣持で現地に到着されたのであります。到着當初向井民間代表、總領事、主要隨員と協議せられました結果、こゝに我が方の對蘭交渉方針として石油問題を先議する、石油問題が解決を見ない限りは他の一般的要求問題については一切触れない、こういう方針を確立せられました。この方針に基づいて交渉を開始せしむることに相成つたのであります。この点につきましては到着いたしました九月十三日に使節

8 1.3.3.0-1

2845

0239

C. 石油問題先議方針

も揃へて出して貰ひたい、他の一般的要求も見た上でなければ蘭印として自己の能力に應ずる回答を差上げるわけには参りません、
 どうか石油問題と並行して他の一般的要求も出して貰ひたいといふのが蘭側の態度であつたのであります。これに對しまして我が方といたしましては、蘭印はどうか石油問題を會商の道具に使ふ方がある、日本としては石油問題を非常に重視して居るのであるが、蘭側がこの石油問題を道具に使ふといふことはどうしても承知出来な
 い、何としても石油問題を先に解決しなければならぬ、このいふ方針を堅持いたしました、何處までも石油問題が或る程度解決を見な
 ければ他の一般の問題に入らない、このいふ方針に則つて交渉を進め
 るのであります。さういたしましたのでこの石油問題については向井、フアン、モークの間でだん／＼話が進められ、日本側として希望する品種、数量等の要求に関する詳細な覚書を提示して、これに對する回答を待つたのであります。

6 1.3.3.0.1

2847

0240

4. 三國同盟の興へた波紋

(所謂スラベンクナ會談真相)

當初石油問題に關しましてこちらが要求をいたしましたのは、先づ買油問題でありました。これは年度の關係などもありまして、何としても買油の方を先に片付けて、然る後に他の問題に入らう、
 このいふ方針であつたのであります。この買油についての我が方の要求を提示いたしましたから、先方の回答を待つて、ありました。買油の廿七日でありましたが、夕方から日本側の代表部は蘭側代表部の招待を受けて、海軍の測量艦に乗つてゲンゾインゾウの港外に船遊びをして居りましたが、何でもその夜にこの詳しい情報が入つたので、その夜は蘭印の總督を中心として非

6 1.3.3.0.1

2848

常な動きがあつたといふことであります。この協定の成立を契機といたしまして、俄然蘭側の空気が悪化したと云つて、この儘で置けば會商は或は決裂をするのではないかといふやうな状態にまで立至つたのであります。そこで蘭側はこの危機を打開いたします為めに、バタヴィアを離れて何處か僻靜な處で一處ゆつくり日本側の代表部と話をしたいといふ譯で、蘭側の招待によつて小林使節以下日本側の主要隨員が出発しまして行はれたのが所謂スラベンクナ會談であります。これは御承知の方もありと思ひますが、バタヴィアから自動車で約三時間餘りの地点でございまして、有名な避暑地のスカズミといふところに、元ドイツ人が經營して居つて最近蘭印政府が管理いたしましたして居ります。このスラベンクナ、ホテルに於て十月十四日から三日間に亘つて會談が催されました。この會談は日本側は小林使節に齋藤、太田の両代表、並譯の場の隨員、先方はフアン、モーク代表にフアン、ホーグラントラ

6 1.3.3.0.1

2849

0241

ンテン通商局長、東亜局長、日本人議員、これ等がその御座に入りまして行はれたのであります。その會談の内訳は主として三國協定の纏る論議でありまして、この協定の成立と日蘭關係がどうなるかといふ問題であつたのであります。蘭側は今日の事態に於ける蘭印の立場を説明して、日本に對して、この協定の真意が那边にあるかといふことを追求いたしましたのであります。これに對して使節その他日本側の代表から交々この協定の真意を説明し、この協定の成立に依つて日蘭間の友好關係が何等阻礙されるものでないといふことを繰返し説明をせられたのであります。その他経済問題の根本に於ける意見交換が行はれ、石油問題についても討議があつたのであります。結局この會談の結果今回日独伊三國間に協定が成立したにも拘らず、日本は日蘭間の友好關係の維持増進を希望するものであるといふ日本代表部の言明があつたといふことを十六日に共同コンミュニケの形で発表いたしましたのであります。

6 1.3.3.0.1

2850

2. 蘭印の會談指導方針三則

その際に蘭印が明かにいたしました方針を申し上げますと、蘭印は今日の事態に於て特殊の國と政治關係を結ぶことは絶対に避けるのである、但し経済的に友好關係を増進することはこれは考へて居る。照らばその經濟關係を結ぶに於ては、第一には蘭印住民の利益を考へる、第二には他の支那國との關係を考慮しなげればならぬ、これは英米を指してゐるものと思はれます。第三には敵國であるドイツに對して利益を興へないといふこと、この三つのが今日蘭印が他の國と經濟關係を結ぶに於て必要なる点である、このいふことを強調いたしました。さて石油問題が交渉せられつつありました際に、これと並行して石油を含めての十三品目、特に錫でありますとか、ニッケル、ボ

8 1.3.3.0-1 2851r 0242

六

キサイド左の鑛物等の買付方については或は總領事を通じて、或は民間の關係者を通じてそれ／＼交渉が進められつつあります。斯様な雰囲気において、蘭印に十月の下旬に至り、小林使節は突如歸朝のこととなり、遂に十月の廿一日にバタヴィアを出發せられ、廿二日スラバヤより乗船せられ歸朝せられました。

ニ、小林使節歸朝の後

小林使節が歸朝せられました後、蘭印側の態度はどうかと申しますと、漸次硬化して参りますと同時に、或る場合には極めて冷淡な態度を執るやうになりました。また一般的に對日空氣も悪化して参りました、われわれとしては非協定派としてを感じたのであります。この間にあります石油問題は向半代表を中心として粘り強い交渉が進められまして、小林使節の現地不在中十一月十二日に至りま

8 1.3.3.0-1 2852

して遂に假調印をするの運びにいたしました。

2. 買油協定假調印と内容

この假調印の内容は、數量といたしましては各品目別に細かい数字があります、總括をいたしますと、現地に於て交渉の成立した数字は〇〇トンであります。この買油交渉は現地に於ける交渉と同時に東京に於ても交渉が行はれまして、東京に於て行はれました交渉に依る成立の数字を合せますと約〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇トンを越える数字と相成つて居ります。この協定成立につきましては日本側といたしましては極めて拙象的に発表しようとして致したのに對して、蘭印側はどうかしても詳細な数字を發表する必要がある、何と云へばこの石油の問題は主として英米資本に依る關係會社が多

8 1.3.3.0-1 2853 0243

い、若し蘭印政府がこの交渉の内容を数字を擧げて發表しないとなれば、英米に對して蘭印政府は非常に面目を失墜するのであるから蘭印としてはどうしても詳細な発表を必要とするのであるといひ、日本側はこれに對して、さういふ詳細な発表は避けて貰ひたいといふことを交渉いたしました、結局この交渉は纏りませんで、蘭印は勝手に詳細な数字を發表いたしました為、蘭印の新聞には一帯にこの細かい数字が載つたのであります。

2854

8 1.3.3.0-1

この買油交渉と並行いたしました石油企業に関する問題について、この買油交渉が進行いたしました、これによつては蘭印側は日本が石油企業に御希望であればニユーギニアとセレベス、ボルネオ方面にはまだ少し位有望な地域が残つて居ると思はれるといふ暗示を與へたのであります。隨て蘭側が回答に與へました暗示を基礎として之に更に日本側の希望地域を加へ石油企業に関する交渉を進める

8 1.3.3.0-1

ことに相成ったのでありますが、向井代表はこの買油交渉の成立を機として健康上の理由に依つて十一月の下旬に歸朝せられました。

ロ、蘭印側會高打切を提議

この買油交渉の成立と相前後しまして蘭側からは頻りに會高打切りの提議がござりました。それはなぜかと申しますと、どうも會高を始めて見たけれど、石油問題以外は一向に話が進まない。これに對して蘭印の輿論は、大勢の日本の侵勢團が来て居るのに石油問題以外は全然討議しない、一体蘭印政府は何をして居るのか、今までは日本の要求を容れたばかりで何も蘭印は得る所がない、日本に對して押しが利かぬでないかといふことで、可なり沸騰して参りました関係もあり、また先程も申しましたやうに、大勢の日本の官吏が蘭印に滞在して各方面を視察調査することを煙たがったといふこ

0244

2855

E 1.3.3.0-1

ともありますが、蘭側は頻りに會高をこの辺で打ちたいといふことを申出でて参りまして、これはバタヴィアに於きましても、東京に於きましても双方に於て蘭側からやういふ提議があつたのであります。勿論彼が方といたしましてはこれを一蹴いたしました。やうしてこの買油交渉の成立に至ります間に於て、吾々代表部といつたしましては東京より携へて参りました一般の對蘭印要求案について、果してこの案の通りでよいかどうかを検討し、現地に於ける對蘭印要求案の作成に努め、一應現地案といふものを作り上げ、中央に請

訓いたしました。

シ、總督協定の成立

この買油交渉の成立と同時に、茲に善い結果を見ましたのは總督協定の成立であります。丁度買油交渉が成立しかけました頃、

2856

E 1.3.3.0-1

石油について折角詰合ひが纏つてもこの決済を従来のやうにドルから買ふといふ際に、アメリカやイギリスの邪魔に依つてこの支拂代金であるドルやポンドの決済が出来なくなつて、折角の石油交渉も無意味になる、これを何とか英米側の邪魔を取除くやうな方法を講じたといふところから、茲に總督協定の協議が開始されたのであります。これは政府が直接やるよりも民間に任せられた方がよいといふことで、こちらは正金銀行のバタヴィア支店長今川氏、先方はジャバ銀行總裁のトクター・ウイツケルト、この両者の間に話が進められました。十二月の下旬に至り、總督協定の円滑なる妥結を見るにいたつたのであります。この協定に依りまして日本銀行はジャバ銀行の中にギルガリの協定を持ち、ジャバ銀行は日本銀行の中に圓の協定を持ち、相互に圓とギルガリとを相殺決済して行くやういふ趣旨の協定の成立を見ないのであります。斯様な情勢の間に

0245

2857

E 1.3.3.0-1

わね、代表部といたしましては、既に現地に於て用意いたしました對蘭印一般的要求の提示の促進を圖るべく中央よりの訓令を待つて居りましたところ、中央からは既に金権として芳澤前外務大臣を派遣することに決定し、芳澤金権が近くバタヴィアに到着の上、芳澤金権の名を以てバタヴィアで提示することとが適當であるから、このいふ訓令が参りましたので、只答芳澤金権の着任を待つてゐたやうな次第であります。

第三、芳澤交渉に移りて

一、望々たる大使節振り

そこで、芳澤金権の着任より今日までの経過について申し上げます。望々たる大使節振り

2858

E 1.3.3.0-1

又その他の関係でスラバヤで上陸せられぬので、衆つて来られ
た船でその儘タンゴツプリアオクの迄までお出でになり、十二月の
廿八日に上陸せられたのであります。そのタンゴツプリアオクに於
ける蘭側の出迎への状況は、小林使節と全く同じでありましたが、
この蘭側の代表陣を迎へての芳澤全権の應酬振りは大夜に立派であ
りました。非常な心強さを感ぜられた次第であります。その後には
しても芳澤全権に對しては蘭側の印象は極めて好いやうでありまし
て、われわれ代表部の隨員として非常に心強く感じました。全権は
暮押迫つてからの着在でありましたから、暮のうちは唯だわれ
日本側代表部の隨員一同と種々協議を進める程度に止められまして、
明けて一月二日總督と初會見せられたのであります。その際全権は
總督に對して、今回の蘭印訪問の目的その他について種々の事項を
擧げて、積極的に日蘭間の経済関係を強化する必要のある点を強調
せられたのであります。その後数次に亘つて蘭側の要人と會見せ

8. 1.3.3.0-1 2859 0246

られ、蘭側の意橋を打診されました。われわれに對しては既
に現地に於て用意いたしました對蘭印要求覺書を全権にお目に掛け
その指示を仰いだのであります。その結果多少の修正を加へられ
まして、愈々往く蘭側に對してこれを提示するといふ運びに相成つ
たのであります。かうしてその要求覺書は一月の十六日に我々が石澤
代表の手に依つて蘭側の代表たる通商局長の手に渡されました。

ニ、我方提示の要求覺書要綱

今その日本側から蘭側に提示いたしました要求覺書の概略を申上
げますと、大体四つの部門から成立つて居ります。第一は入國企業
に關する点であります。第二は交通通信に關する点であります。第
三は營業の制限緩和に關する点であります。第四は通商貿易に關す
る点であります。

8. 1.3.3.0-1 2860

4. 入國企業に關する問題
（日本医師開業の手續等）

第一の入國企業に關する問題であります。御承知のやうに蘭印
は外國人の入國について、敷の上に於きましても、入國の實際の手
續の上に於きましても非常に制限を加へて居ります。この蘭側が故
けて居ります制限が、日本の對蘭印發展の上に非常な障礙となつて
居りますことは御承知の通りであります。隨つてこの弊人發展上の障
碍となつて居る入國について敷の上に於ても亦手續の上に於ても今
少しく緩和せよ、といふ要求であります。大体敷といつたしまし
ては外國人については一國當り八百人、更に剩餘が生じた場合の規
定によりまして、日本人であれば一年に千六百三十三人入ること
從來の例であります。これは現在の蘭印の人口分布の状況から見

8. 1.3.3.0-1 2861 0247

て爪哇に對してはそれによろしい、併しなから爪哇以外の人口の稀
薄な外領に對しては、敷で割當てられることは日本側としては迷惑
である。隨つてこの敷は外領に對しては受に大量に入り得るやうにし
て貰ひたいといふことが要求の骨子の第一であり、また手續の上に
於ても更に一併と緩和するやうにといふのが要求の第二の骨子であ
り、入國税一人當り百五十ギルダを撤廃するやうにといふのが第
三の骨子となつて居ります。

この入國企業の問題に關聯いたしました時に取上げられましたの
は日本人醫師開業の問題であります。日本人が蘭印で医師を開業し
たします場合には、オランダの医師法の定むるところに依つて、オ
ランダ語に依る試験を受けなければなりません。これが非常に面
倒でありまして、單に日本の医師の資格を持つてゐるだけでは殆ど
合格不可能で、蘭印の医科大學でも出なければ、医師の資格が取れな
いといふ窮乏状態にあり、これが日本人の保健衛生の上に於て非

8. 1.3.3.0-1 2862

常に苦痛となつて居りますので、日本の医師法による或種の資格を有する日本人医者の職業を自由に許すやうにといふ問題も一つの要求として取上げたいのであります。その他各種の企業について調査上、経営上、施設上被りかたて居る不便な障礙を除去するやうにといふのが入国企業に関する要求であります。

六、交通、営業、貿易の要求
次の交通通信に關しましては、これは航空の問題と、海運の問題と通信の問題と三つございりますが、航空に關しましては日本側の飛行機の衆入を認めさせること、また海運の方に關しましては、現在開鎖されて居る主として大東地方の港を開港場としてその数を殖やすこと、或は沿岸貿易に日本船が従事することを更に廣く認める問題、これ等があります。通信に關しましては主として海底電線敷設

を要求いたしましたのであります。
第三の営業制限の緩和でありますが、これは蘭印が営業制限令を發布し、倉庫業、印刷業、搾乳業、特殊織物業等名許可制度として居り、法の建前としては許可事業でありますが、外國人に對して殆ど禁止に等しいやうな行政上の取扱ひをいたして居りますので、その行政上の手續を緩和して、日本人に對しても今少しく營業の制限を緩和するやうにといふ要求であります。
第四の通商貿易に關する要求は、日本商品の蘭印進出については現に割當りかたて居ります歩合を高めるといふこと、又日本の蘭側から購入を欲する物資についてはその數量の増加を要求いたしましたから、これは先程申しました石油その他の十三品目が眼目と相成つて居ります。こゝにいふやうな要求を一月の十六日に提示いたしましたので、これに對する蘭側の回答を待たつたのであります。

E 1.3.3.0-1

2864

E 1.3.3.0-1

2863

0248

三、蘭印の回答及對察

ウ、根本に於て意見相違

これに對する蘭側の回答並に日本に對する要求は二月の三日に埋示して参りました。その蘭側の覺悟の発言は、最初に蘭側の意圖と日本の要求との間に根本的に意見の相違がある点を明にいたして居ります。その要点は日本では頻りに外領方面がまだ開鎖されてゐないであるからこの外領方面の開鎖にもつと日本人を積極的に發展させる。こゝにいふことを言はれる。またその一つの理由として日本と蘭印とが非常に近距離にあるといふことを理由としてせられる。これは蘭印政府としては諒解し難いところである。今日の外領方面は或程度部外人口が稀薄である。しかし蘭印としては公哇に世界第一の稠密な人口を持つて居る。この過剰な人口の捌け口を考へなければ

E 1.3.3.0-1

2865

0249

はならぬといふことが第一、その點には外領の開鎖を將來保留しなればならぬ。外領の状況を熟々見るに、その外領が包蔵して居る資源は日本で言はれる程簡単に開鎖出来るものではない、ものには順序があるので、日本の言はれるやうにさうざん／＼開鎖出来るのではない。さうして日本の言ふ距離が近いといふことは何等蘭印の外領を開鎖する理由にはなれないといふことを指摘いたして居ります。

2866

七、経済協定に三項の建前表示
次に蘭印が今日外國と經濟關係を結ぶに關して考慮すべき事項として三項目を擧げて居ります。これは先程申上げましたアラビヤ半島會議に於けるフアソ・モノク代表の説明と略々同様であります。第一には、蘭印としては何等までも蘭印生

E 1.3.3.0-1

民の福利増進といふことを建前として居る、第二に蘭印は各國に對して経済的には平等の方針である、併しながら外人が蘭印の住民よりも優劣的な地位を占めることは極力避ける方針である、これはその後の會談に於て説明されたところであり、蘭印の石油事業について、英米の資本が優先的地位を占めて居るといふことは蘭印にとつては苦痛であるやうであり、こゝにいふ例から見ても外國資本が或る事業について優先的地位を占めることは蘭印として出来ぬだけ避ける方針であるといふことが第三点、第三点は「ドイツといふ言葉は使つて居りますが、敵國を利せざる」といふ項目を擧げて居ります。

シ、次で持出した對日三項目

こゝにいふやうな前書をいたしまして、皆て蘭印側から日本に要求

E 1.3.3.0-1-1 2867 0250

するところは次の三項目であるといつて擧げて居りますのは、第一に蘭印物資の買付要求であります、これは砂糖とコーヒーであり、第二に文面だけであります、これはハツキリいたしません、第三に自由といふことを言つて居ります、これは爲替協定の成立に依つて略々解決した問題ではないかと思ひます、第三には日本に於けるオランダ商人の營業をもう少し自由にして呉れ、こゝにいふ三つの要求であります、これは二月三日に蘭側から日本側に提示された覺書の内容であります。

四、俄然起つた三大障礙

ア、その一廿大東亜共栄圏の解釋

こゝに双方の覺書を提示されたのでありますから、この覺書を上

B 1.3.3.0-1-1 2868

台として會商を進めようではないかといふことに相成りましたが、この會商を進めますに於いて二の障礙が発生して來つたのであります。

第一は折謂大東亜共栄圏における日本の指導的地位と蘭印との關係についての帝國議會における論議であります。議會に於て政府大官の口から大東亜共栄圏の中には當然蘭印が入るべきものであり、それに対して日本が指導権を持つものであるといふ意味に取れる説明は蘭印側をいたく刺戟したのであります。この問題については既に御承知のやうに駐日バダスタ公使から外務當局に對して申入れがあつたのであります。蘭印は決して日本の指導下に入るものではな、何處までも純經濟的に有無相通の關係は結ぶべからず、蘭印が政治的に日本の指導権下に入るといふことは思はずとも認められな、といふ意味の申入れをして居ります。またこの点について蘭側の首席代表であるフアン・モイグの名前を以て聲明したして居り

B 1.3.3.0-1-1 2869 0251

まするし、蘭側の言論機關は一齊にこの点を捉へて日本に反駁を加へました。隨つてこの点に関して適當なる日本側の説明がなれば會商を進めるわけには参らな、といふことの一つの問題であります。

ハ、その二は折謂「大橋次官の談話」

この点についての双方の交渉が進められつつあります際に發生いたしましたのは折謂大橋次官の新聞記者に語られたと傳へらるる在ロンドンバダスタ公使に関する言明についての同盟ニュースであります。この同盟ニュースは二月の三日にバダスタが入つて來ました、その内容は駐日バダスタ公使が大東亜共栄圏問題と蘭印との關係について何か申入れをしたのであるが、之に對して大橋外務次官はロンドンに逃げたやうなオランダ政府の言ふことは一々日本側はがまかつて居れないのである、こゝにいふことを言はれたと謂ふ意味

B 1.3.3.0-1 2870

ずといふ規定がござります。種々現在の状況はオランダ政府自ら逐法違反をやって居るわけでありまして、これは何等としては非常に苦しい点であります。その彼等が最も忌所として居る点を取直に突いたこの同盟＝ユースが如何に彼等に衝撃を與へたかこれ亦わかれはとして容易に想像し得られるところがあります。斯様な問題の発生に依りまして蘭側は日本側が在ロンドンのオランダ政府を認めないうやうならば會商それ自体が無意味である。随てこの点について何等かの御説明がなれば會商を進めることは出来ませんといふやうな態度であります。この点に関する説明が行はれることになつたのであります。その後一週間ばかり経ちまして、ロンドンからの＝ユースといひました。駐日パプア公使が日本の外務省を訪問して、今回のパプアに於ける會商は日本政府が任命した使節團とロンドンにあるオランダ政府の任命した蘭印の代表との間に交渉を進めるものであるといひ申し入れをしたのに對して、日本政府は

B 1.3.30.0-1

2872

の電報であります。丁度私共は二月三日の初達邊りに全權の官邸で蘭側から提示されました覺書の説明を太田代統から聽取いたして居りましたところ、同盟記者の安藤君が入つて参りまして、今二ういふ＝ユースが入つた。この＝ユースに関するオランダ側の意圖を申し上げませう、とて次の様に説明いたしました。丁度その日は日本の新聞記者團と蘭印のリップスマン情報部長との定例会見の日でありました。その定例会見の際にリップスマンが非常に興奮した面持で、今は非常に重要な＝ユースが入つて来た、それはこれだといつて今申し上げますやうな同盟の＝ユースを見せたやうであります。が、その際に今度だけは同盟の＝ユースが諜報であることを秘望する、斯様に安藤君に語つたといふことであります。この問題が如何に蘭印側に衝撃を與へたかといふことはこの一事を以つても容易に想像し得られるところでありまして、御承知のやうにオランダの憲法には、如何なる場合に於ても政府の所在地を三國領外に移すことを得

B 1.3.30.0-1

2871

0252

四、入國企業問題の討議

申渡されましたが、昨年十一月末にバタヴィア總領事は齋藤氏から石澤氏に喪失になりましたので、現地總領事として日本側の代表は齋藤氏から石澤氏へ変更になり、一方外務省から行かれた太田代表は健康その他の関係で二月十七日開始される會商に参加することが不可能になりましたので、日本側は主として石澤代表がこの會商の衝に當り、問題の如何に依つて關係の随員が参加する。こゝにいふ建前であり、蘭側は通商局長を代表とし、それに関係官が参畫をする。こゝにいふことに相成つて會商が進められたのであります。私は二日の廿五日にバタヴィアを経つて歸朝の途につきましたが、その日までの進められて居りましたのは、まだ日本側の提示した要求の中に入

B 1.3.30.0-1

2874

建前を以て會商が開始されたのであります。

五、會商進行の状況

その通りである。承諾したといふことと言つたといふことが入つて参りましたので、蘭側の空気が非常に緩和いたしますと同時に、又考澤全權も東京と打合せられました結果自分の東京から得て居る公使は同盟＝ユースとは全く違ふものであるといふ声明をされたのでこの問題はそれ以上發展せずして一應茲に覺を付けることに相成つたのであります。かくて會商は両方が提示いたしました覺書を土台として二月の十七日から開始されることに相成つたのであります。

B 1.3.30.0-1

2873

0253

三六

三五

國企業の問題だけであつたのでありまして、全般についてこの會商の内実を申し上げる資格はないのでありますが、バタヴィア出張までの模様をかいつまんて申上げますと大凡次の通りであります。

この入國問題に對する蘭側の態度は、蘭印の方針を率直に申上げると、蘭印は將來外國人の入國は出來るだけ阻止する方針である、何とかは蘭印としては七千万のインドネシア(土人)の將來を考へなければならぬ、彼等に教育を施し、彼等に職を與へ、また爪哇の過剩人口は外領に移さねばならぬ、こゝろいふやうな方針であるために外國人の入國は出來るだけ阻止して行きたいと考へて居る。日本側が数の上になつても赤手籠の上になつても色々要求せられて居るけれども、その大体についてはいはせうしても應ずることは出來ない、手籠の緩和を望んで居るに對しては出來るだけ便宜をお圖りしようとは申しませんが、根本の方針としては日本人のみならず外國人の來ることに對しては出來るだけこれを減りして行く方針である。現に蘭印住民

B 1.3.3.0-1

2875

0254

の生治に至大の關係を有する小賣商とかその他の小商工業が日本人なり支那人なりに依つて占められて居るといふことは適當でないと思ふので、これ等の營業は漸次外國人の手から土人の手に移して行く方針であるといふことが明かにせられたのであります。醫者の問題に關しましては日本の要求に尤もな点もあるから考慮する餘地はあると思ふけれども、日本人だけを見れば、日本人なり土人を論ずるといふことでは、考へられる。しかしオランダ人なり土人を論ずるといふことでは、これは現在醫者が飽和状態にある蘭印としてはお断りしたい、こゝろいふ意圖であつたやうであります。企業關係に於きましては例を鏡業に挙げますれば、蘭印としてはこの重要なる蘭印の資源は蘭印の將來のために保留しなけれはならない、石油をあまり自由放任主義で開放したために、今日蘭印の石油業は英米の資本に依つて優先的地位を占められて居るが、これは蘭印としては非常に困る問題であるから、將來の礦業開發については外國人が優先的地位を占める

B 1.3.3.0-1

2876

ことは極力避ける、しかし若し眞に日本の進出せんとする會社にして資本的に見てもその内容から見ては、その技術から見ても信用し得る會社の進出であれば考慮し得る餘地があるといふやうな回答であります。また水産業に關しましては、日本側としては今日蘭印が禁止致して居ります沿岸漁業にまで進出せんと欲して居るのであります。これが、これに對して何等は沿岸漁業は將來土人のために保留して置く必要がある、現に蘭印政府としては相當多額の經費——と申しましては百万宿余りです——を計上して土人漁業の發達を圖つて居るのであるから、この際外國人が進出することは困る、こゝろいふ説明でありました。こゝろいふ問題に關しましては、こちらが議論を以て嚆々として行き、それに對して向ふが議論を以てこれに對抗出來ないといふことになりまして、向ふはこゝろいふ言ふかと申しますと、日本の要求は尤もなところもある、しかしそれは平和の時代ならば蘭印として肯んこと出來る、けれども今日蘭印は本國は御

B 1.3.3.0-1

2877

0255

承知の通りの状態であり、且つ蘭印自体としても戒嚴令を布いて取締を施して居るこの際であるから、日本の御要求は世界が平和の時代になつて、極東に何等の不安のない時になつてから御相談に應じませう、こゝろいふ逃げ口上を申すのであります。

6. 放棄案御にこだわる

これが私が滞在中に行はれました蘭側との間の討議の概略であります。丁度この討議が進められておりました際に神戸駐在のオランダ總領事のペンニングが爪哇に歸つて参りまして、この會商の蘭側代表陣の顧問に就任いたしました。彼がこの討議の席上に出て参りまして懇々と石澤代表から間接に聴きますと、彼の説明した点は二つの点であります。一つは日本に於ては樞軸國以外の外國人に對して非常に壓迫を加へて、排外思想が漲つて居る、現に

B 1.3.3.0-1

2878

彼が在動した神アに居るオランダ婦人がここの目に遭つたあつた
 小目に遭つたと言つて色々オランダ人の壓迫される例を挙げて説明
 をしたそうであり、また第二の点として日本では物資に對する
 統制が非常に救いて居るために、外國人であるわれわれの日常生活
 品であるバターやパンの入手に非常に困難を感じる。種々の点に
 ついてはわれわれとしてここの日本の統制経済に順應すること
 が出来るといふ案を携へて官憲に廻へても官憲は聞いてくれないと
 いふやうな事例を非常に激烈な口調を以て説明をしたさうであり
 して、それを聞いてゐた蘭側の代表であるホーグストラテンは聴
 きふるはして興奮したといふことでもあります。ここのやうな情勢
 で目下會商は進められつつあるのでありますが、只今も申し上げ
 通り會商の内容は双方が提示した電書の内容について意見を交換し
 説明をして、その要求の真意を明らかにするといふ方法で進められ
 るのであります。今日までこの要求を本として解決した問題は

私が恐りますまではありませんでした。大体會商はさういふ段階に
 現在到達をいたして居ります。

C 困つた樂観的放送

現地に居りましてこの會商を進めます上に於て日本本國にこ
 うして賛むたいといふ希望を感しました。動もすれば日本側に於て
 この會商について樂観的放送が行はれてゐる。その著しい例は、日
 本は石油問題についてもう満足したのである。思つたよりも餘計取
 れたといふやうな意味のことか、果して誰か言ひ出したか知りませ
 んが新聞に傳へられまして、オランダ側はそれを橋にとつて、もう
 石油だけで満足してゐるやないか、それ以上のことは適當にあり
 うべいといふやうな感じを與へてゐるやうであります。この
 樂観的放送には直々蘭印側との交渉に當りた代表などは非常に苦

B 1.3.3.0-1 2880

心せられたやうであります。従つてか機密は出先を困らせない
 様に本國で注意すべきでないかと思ひます。

第三 蘭印の對日態度

會商の今日までの経過は概要以上の通りでありまして、次に蘭
 印の對日態度について申し上げます。

一 我實力發動の一步前まで頑張る

第一に今回の會商に臨む和蘭官憲の態度であります。これは先
 程も申し上げましたやうに、小林使節が着任せられましたのが一日選
 れたためにやつと諸般の準備が間に合つたといふ位であります。
 非常に慌て、居つたやうであります。皆で日本の要求に對しては

B 1.3.3.0-1 2879 0256

いふ態度を以て臨むかといふ点につきましては、これは個人の
 觀察であります。恐らく日本をして盛には實力に缺へてまで要求
 を貫徹せしめざるを得ないやうな立場に陥らしめない範圍に於て最
 小限度に日本の要求を認めようといふのが總督以下蘭印官憲の一致
 した態度ではなかつたかと思ひます。小林使節が九月十三日に
 蘭印總督に初會見をせられました時の應待振りは極めて表面的であ
 り、外交辭令を弄しまして何等日本と積極的に手を結んで両者の經
 済關係の提携強化に努力する意欲は少しも認められなかつたといふ
 ことであります。使節は總督の應待振りに對して極めて不敏な印
 象を感されたやうであります。しかしながら會商の當初に於てまし
 ては蘭側もわれわれ一行に對しては大体に於て友好的な取扱ひをい
 たして居りました。然るに先程も申しましたやうに、日独伊三國協
 定が成立し、星軍が蘭印に進駐するといふやうな情勢になつて参り
 ましたから、半ば日本に對する恐怖に甚く警戒心から漸次日本の

B 1.3.3.0-1 2882

を貫徹せしめざるを得ないやうな立場に陥らしめない範圍に於て最
 小限度に日本の要求を認めようといふのが總督以下蘭印官憲の一致
 した態度ではなかつたかと思ひます。小林使節が九月十三日に
 蘭印總督に初會見をせられました時の應待振りは極めて表面的であ
 り、外交辭令を弄しまして何等日本と積極的に手を結んで両者の經
 済關係の提携強化に努力する意欲は少しも認められなかつたといふ
 ことであります。使節は總督の應待振りに對して極めて不敏な印
 象を感されたやうであります。しかしながら會商の當初に於てまし
 ては蘭側もわれわれ一行に對しては大体に於て友好的な取扱ひをい
 たして居りました。然るに先程も申しましたやうに、日独伊三國協
 定が成立し、星軍が蘭印に進駐するといふやうな情勢になつて参り
 ましたから、半ば日本に對する恐怖に甚く警戒心から漸次日本の

B 1.3.3.0-1 2881 0257

使節團及び日本人に對する態度は悪化して参りました。小林使節が引揚げられまして後芳澤全権の着任されました。十一月下旬に於ては非常に悪化いたしました。相次いで毎日事件が發生いたしました。

二、目に餘る毎日行爲擧出

その主なるものを申し上げます。或日本人が醉酔つては居りましたが、宴會の歸りに土人の警察官から人事不省に成るやうな殴打を受けたことがあります。またバンドンにある或る日本人の寢眞屋で十一月廿三日の夜、當日はカイルヘルミン女王の施政五十年祝日でありましたので日章旗を掲げて居りました。夜それを取片付けるのを忘れてその儘にして置きましたところこれを購却された事件があります。バンドンはオランダ陸軍の本場であり、最も對日空気の

2883 0258

B 1.3.3.0-1

悪いと云はれる所であり、それから我が代表部の職員であり、領事館の館員である某書記生がバタヴィアの總督官邸の前を通行中、寫眞を撮影しようとした嫌疑に依つて捕へられた。その書記生は身分姓名を明かにして説明したに拘らず囚人自動車に乗せて之を警察に連行した事件がありました。これは後程調べて見ますと總督官邸附近は撮影禁止區域になつてゐなかつたのであります。而もこちらから負ふ姓名を明かにして説明し又必要とあらばタクシーで行くと申したに拘らず囚人自動車及び警察本署へ連行したといふやうな事件は、當時蘭印の軍隊なり警察官に對して相當抗日的教育を施して居るといふ噂を裏書するかのやうでありました。またシンガポールから飛行機で見えられた海軍の某中佐に對して入國を拒否するといふやうな事件も發生いたしました。こゝにいふやうに相次いで毎日事件が發生いたしましたために、支那の新聞はまるで支那事案の前後を思はせるかの如き状態である。こゝにいふやうな批評を

2884

B 1.3.3.0-1

加へて居りました。

三、日本人への取締めに懸置

こゝにいふ狀況が續いて参りまして、蘭印官辺の日本人に對する態度は悪化して参り、日本人に對する取締は極めて嚴重になつて参つたのであります。その後今例として挙げましたやうな大きな事件は發生いたしました。然る處で日本人に對する取締が發重となつて参りました。その結果返答を要求された日本人もありませんし、家宅搜索を受けたたり執問を受けた日本人は其の數も少なくないであります。またわれわれ代表部の隨員に對しましては從來極めて友好的取扱をいたして居りましたに拘らず、極く最近にいたりましては非常に非友好的取扱をするやうになりました。その一例を擧げますれば、参ります時は上陸に際しましても旅行に際しましても

0259

B 1.3.3.0-1

2885

2886

B 1.3.3.0-1

可なり友好的な取扱でありました。こゝに私が歸ります際は、われわれの所持品に對しても他の人と同様に檢閲をする。唯だ他の一般人と違ひますのは、税関など取調べをします際に、優先的に取扱ふ程度の差はあります。又國際法上の理論は何れも私に私に少くとも友好國の使節に對して執るべき態度ではなかつたと私は見るのであります。さういふ風に代表部の隨員に對しても可なり警戒の目を光らせるやうになつて参りました。

四、何故の對日警戒か

照らば何故に彼等がそのやうに日本人に對する取締を嚴重にしたかといふことについて大凡考へられることは、兩側の當局者が會談の際などにそれとなく漏らす口裏から想像いたします。次のやうな点に彼等が疑念を持つて居るやうに思はれます。第一は最近日本

第一は國防の強化といふことであります。私は先程御紹介にもあ
りました通り、昭和十三年の九月から十月にかけて蘭印地方を視察
いたしましたのであります。當時と今日と比べてまして國防施設の上

一 國防強化の物々しき

最後に最近に於ける蘭印の主たる動向について申し上げます。

第四 最近の蘭印の動向

可が非常に難かしくなつて来たのみならず、外領方面に活動する邦
人に對しての警戒は従来以上に嚴重になつて来たといふことを申し
て参つて来て居りますが、これが最近の蘭印の日本に對する態度の
概要であります。

の朝野に於ける對蘭印の議論が非常に發達になつて来た。日本の一
流の人々の言動から見ても、また言論機關の論調から見ては蘭印に
對する強硬論が盛んになつて来たといふこと。それから今回の會商
に當つて非常に多數の現役軍人が参加して居るといふことが第三の
点、第三には来る日本人も来る日本人も必要があるのかどうか知ら
ぬが必ず外領方面まで視察する。のみならず必ず本屋を廻つていろ
いろな資料を買求めて行く、何故にそれ程日本が蘭印を調査する必
要があるかといふやうな点、こゝいふ点を綜合いたしましたして日本の
蘭印に對する態度に非常な疑念を懷き、非常な警戒を致して居るや
うであります。斯様にいたしましたして蘭印の日本に對する態度は益々
警戒心を深めつゝあるやうであります。極く最近入りました或る日
本の企業會社からの情報に依りますと、タム、帯印の紛争調停の成
止、且に松岡水相の渡歐に關係して蘭印の日本人に對する取締が益
々嚴重になつて来た、戒嚴令を強化して、日本人の入國に關して許

S 1.3.3.0-1

2888

S 1.3.3.0-1

2887

0260

す。この物々しい國防振りに對しては流石に瑛澤全權も異様に感ぜ
られたと見えます。一月二日の總督との會見の際に於きまして、
自分はスマバヤからずっと船でバタヴィアに來たのであるが、蘭印
は非常に國防を強化した、平和裡に外交交渉を遂げるためにやつて
來た自分としては異様に感ぜられるといふ質問を悉せられ、對
して、蘭印は御承知のやうに戒嚴令を布いて居る、世界の事態は非
常に緊迫して居る、殊に東連の事態に對しては或る不安を感じて居
る——といふことは恐らく佛印問題を指したのではないかと考へら
れますが——と總督はさういふ説明をしたといふことであります。
即ち今日の蘭印は國防強化といふことに依つて總督の政策が生れて
居るやうに思はれるのであります。何故に斯様な必要を感じた
かといふことになりまして、恐らくは本國があつていふ状態になつた
蘭印として——當時のオランダの輿論は、オランダが中立政策を
堅持する限りドイツはオランダに入つて來ないといふ風に考へた向

S 1.3.3.0-1

2890

非常なる変化を來して居ります。當時から國防の充実といふこと
は力を注いで居りましたけれども、今日では國防の強化に狂奔して居
ると言つても差支ない程物々しい施設振りであります。市内に於き
ましては、少しでも廣場があれば到る處に防空壕を設けて居ります。
又地方を旅行いたしますと實眞の撮影禁止區域は外國人の立入禁
止區域が非常に殖えて居ります。また連日に亘つて演習が行はれて
居ります。私は専門家ではありませんから能く分りませんが、最も重
点を置いて居りますのは空襲に對する警戒のやうであります。例
へばゴッラ場などに参りましては飛行機の着陸を阻礙するために鐵
の棒を立て、居るといふやうに空襲に對する警戒を致して居り、ま
た海岸方面では軍敵の上陸に對する豫防施設をいたして居るやうで
あります。かうも蘭印の國防は吾々素人が見ても本當に國土を護
らんがための國防といふよりも土人に見せぬがための國防ではない
かと思はれる位素人目につくやうなやり方で國防をいたして居りま

S 1.3.3.0-1

2889

0261

キが多かつたらしいのでありますが、その深い希望が現實に蹂躪され、随て他國に依存する國防が如何に惨めなものであるかといふことを痛感いたしました。何とかして蘭印の領土は蘭印自体の國防に依つて守つて行きたい、斯ういふやうな氣持から及ばずながらも國防を強化して行かう、こゝいふことになつたのではないかと想像されるのでありますが、戒嚴令は日に増し強化されて、所謂第五部隊と思はれるものに對しては嚴重なる警戒をいたして居ります。ドイツのオランダ本國侵入後はオランダ本國に限らず他から蘭印に來たオランダ本國人に對してもこれをその儘上陸させないで一應は或る収容所に收容いたしました。數ヶ月の間その思想傾向を十分調査した上で左に述べた如く解放をしないといふ政策を執つて居るやうであります。

二、英の最後勝利を信ず

第二には蘭印にある和蘭人の國際政局に對する見識に付て、かります。これは中々難かしい問題であります。私の觀察を以ていたしますれば、今日の事態となつてはやはり歐洲戰爭に於て最後の勝利はイギリスが占めるといふことを念願もし、また確信して居るのではないかと思はれる節があるのであります。それは昨年小林使節が行かれました頃、また齋藤總領事の在任されました頃、オランダの要人が使節より總領事に説明するところでは、この歐洲戰爭の將來に對する見識について口先ではイギリスが勝つといふやうなことを言つて居りまして、如何にもそれが虚言を張つて居り、半信半疑で言つて居るやうにしか受取れなかつた、然るに齋藤總領事が石澤總領事にたり、小林使節が芳澤全權になる頃から蘭側は如何にも確信に滿ちた態度を以てイギリスの勝利を説明するといふことでありまして、この英國の勝利を假筆をして信じてせるに至りまし

6 1.3.3.0-1

2891

0262

五五

た動機となつたものは、一つには地中海方面に於けるイタリーの敗北でありまして、特にバルブアの陥落は蘭印に於て大々的に傳へられまして、蘭印の朝野をして狂喜せしめたのであります。第二にはワシントン大統領が對英援助方針を明確にしたといふことでもあります。この二つの事實は蘭印をして益々英國の勝利を確信せしむるに至つたやうでありまして、世界の動きに開いては大体に於て今日のところは英國の勝利を確信して居るやうに見受けられます。無論當事者といひましたし、或るは双方の情報に詳細に取寄せて検討をしまして居ることは間違ひありませんけれども、大体に於て英國の勝利を確信して居ると見て差支ないと思ひます。また米國の動きに於ては、従來可なり疑を執つて居りました、若し南太平洋に於て蘭印を中心として事が起つた場合に、米國が果して積極的に援助して呉れるかどうかに對しては可なり疑問を執つてゐたやうであります。が、最近に於ては米國の動向に鑑みまして、米國は極東に於て必ず日本の南進を阻止するものであるといふことについて信じて居るやうに見受けられるのであります。

三、當然英米の属領

次に第三には英米に對する關係であります。第一に英國に對してあります。これはハリキリと英國とオランダとは盟邦であるといふことを申して居ります。政府の刊行物を見ましても、言論機關の論調を見ましても、我々盟邦英國といふ言葉を使つて居ります。さうして今日オランダ本國の機嫌に對して念願するところは英國の勝利に依つてのみ達せられるのである、英國の勝利に依るオランダ本國の自由なる機嫌を因ら、オランダの現在の蘭印に於けるオランダ人の一致した念願であり、オランダの凡ゆる政策はこの念願を達成する線に沿うて行はれて居ります。隨て英國に對しては積極的に凡ゆる

6 1.3.3.0-1

2894

五六

6 1.3.3.0-1

2893

0263

五五

る援助をいたして居ります。最も露骨にいたして居りますのは国防の献金でありまして、オランダ皇族の方のお名前を付けた基金を募集いたしました。その基金を以て英國に試験の援助をする、これは極めて大ツびらにやっております。極く最近にはオランダの豪華船であるオランダエニエ號を英國に對して病院船として提供するというので目下スラバヤの港に繋船いたしました。内部の改造をいたして居ります。オランダ人の英國に對する感情を最も露骨に現はすものとして、英國のオランダ首相に對するオランダ人の期待であります。映画館に参ります。英國或は濠洲から参りました歐洲戦争に関するニュースを最初にと映いたしました。その際ロンドンの空爆の跡を視察して居るオランダ首相の姿が画面に現はれます。オランダ人は一齊に拍手喝采してこれを迎へるのであります。また十二月の何日でありましたか。オランダ首相の誕生日は丁度オランダの独立記念日に相當するやうであります。その日はオランダと英國の

0264

2895

E 1.3.3.0-1

兩國の國旗を掲げて居りました。私はゴルフに行きます途中土人の運轉手に今日はなぜ國旗を立てるのかと訊いたところが、オランダの誕生日だからであるといふ説明をして居りました。またその日の新聞を見ますとオランダ禮讃の詰まで書いて、オランダの家庭生活一切の感嘆を出して大々的にオランダに對する歓迎の辞を述べて居りまして、オランダに對する期待は非常に大きいのであります。何れにしても政治的又は軍事的に見れば蘭印は英國と一体となつてゐるかの感を與へます。一方米國との關係であります。これは必ずしも英國に對する裡謗骨には理はかて居りません。最近米國の要人が可なり蘭印に茶遊して居ること、また米バタビヤに在る米國總領事館が非常に強化されて居ること、また米國の蘭印研究熱が最近非常に盛んであること、蘭印言論界の論調が米國に對して非常に友好的であること、こつといふ点から想察いたしますと、米國との間の連絡が可なり強化されつつあるやうに存せら

2896

E 1.3.3.0-1

れます。この英米との關係に關聯いたしました。今度の會商に於て蘭側はじつと蘭印に對する日本人の經濟的發展について英米との間に非常に差別をして居るやうに思はれる。のみならず蘭印は事毎に英米と連絡を執り、石油問題の如きは英米兩國の指圖を求めてゐるかのやうな印象を日本の代表部としては受けざるを得ないといふやうなことを率直に質問いたしましたところ、彼等は非常に頓首をいたしまして、絶対にさういふことは無い、蘭印は經濟的には何層までも中立政策を執るのだといふことを口を極めて説明いたしました。であります。この点は最も彼等の痛いところを突くのであるが、この問題を日本人が質問いたしました。質問を受けたオランダ人は一概に非常に興奮するやうであります。これは反面から言へば彼等の憂所をうけた質問であるからであります。

0265

2897

E 1.3.3.0-1

次にはドイツに對する政策であります。これは當然なことであります。極端にドイツに對して對抗的な措置を執つて居ります。五月十日のドイツ軍のオランダ侵入と同時に蘭印に於けるドイツ人が「ベルリン」といふ暗号指令に依つて一齊に攻撃されたことは御承知の通りであります。蘭印政府が今回の會商に當つて日本側に提示した覚書の中にも、また口頭で説明した中に、今日蘭印が外國と經濟關係を結ぶ場合に於てドイツを利するやうな政策は絶対に執らないといふことを明にいたして居ります。この点に關しましては、日本の蘭印に對する物資の要求について、その物資が純粹に日本の需要するものだけであればよいが、その中幾分がドイツに流れて行くといふことであれば絶対に日本の御相談に應じられないとこう申して居ります。經濟省の中には對独輸出を取締る課が新設されました。嚴重に對独輸出を監視して居ります。日本側といたし

2898

E 1.3.3.0-1

六

六

四 独逸へは極端な對抗態度

以上日蘭會商の今日までの経過と最近の蘭印が日本に對する態度
 と蘭印の動向の旨はしものについて極くかいつまんで申し上げたの
 であります。蘭印としては日本が今日國是とし、非常な
 決意を以つてその確立を期して居ります。大東亜共栄圏の問題につき
 ましては、先程も申し上げました通り、これに對して何等積極的な協力
 する熱意を持ってゐないと言つて差支ないと思ふのであります。彼
 等が述べて居ります中に、日本は頻りに地域といふことに重点を置
 いて居るけれども、今日一國の對外策なり國際的地位を決定するに

1.3.3.0-1

2900

(不返轉の決意あるのみ)

第五、結 論

に於て平和的外交交渉に依つて蘭印の物資を取付けようとする際に
 は日本側に於ても十尙留意を要する点であると思ひます。

六

ましてはこの蘭印の疑念に對して左様な事實はないと説明いたして
 居りますものゝ、日本の代表部の説明に拘らず蘭側としては日本の
 要求する物資の幾分か「ドイツ」に行くといふ懸念よりいたしまして
 中々日本の要求には應じないであります。それは何でも或る商社
 がその中の幾分か「ドイツ」に廻るのだといふ通信を書いた文書を蘭
 切政府に押へられ、また國際電報で「ドイツ」の語を録音され
 ました日本人同士の中傷に依つて、彼等の買付ける「これ」の物資は
 「ドイツ」に行くものであるから注意せられたがよといふやうな中傷
 が日本人の商社から蘭側に提示されたとかいふやうな事情もありま
 して、オランダ側としては確證を握つて居る、日本に行く物資の或
 る部分「ドイツ」に行くことは確證を持つて居るのであるから、如何
 に日本側が説明されても最早日本は「ドイツ」援助の爲に蘭印の物資を
 要求されるといふ事實は覆せない、こゝにいふやうなことから蘭印は
 中々日本の要求には應じないのであります。この点は現在の段階

1.3.3.0-1

2899 0266

も各々が意圖する大東亜共栄圏の中にこの蘭印を抱込む爲には更に
 更に有効適切な手段を以てするにあらざれば到底その目的は達し
 難いと思ふのであります。これが私の半蔵に亘る蘭印滞在の結論で
 あります。長時間に亘る御清聴を感謝いたします。(拍手)

(終)

1.3.3.0-1

0268

2902

當つて地理的關係などいふものは決して重要な要素でないとして
 稱して居りまして、蘭印が日本の意圖する大東亜共栄圏内に入るな
 らば到底考へられぬ、その点は絶対に反對であるといふことを唱
 へて居るのでありますから、日本が蘭印を抱込んで大東亜共栄圏の
 確立を圖るためには容易ならぬ決心が必要であると思ひます。今回
 小坂使節を初めとして多くの各省官使が會商の爲に現地に参りまし
 たが、何れも等しく蘭印の物資豊富にして、日本が眞に大東亜共栄
 圏を確立し、その指導者となるためには、どうしてもこの蘭印をそ
 の圈内に抱き込んで蘭印物資の確保を圖らなければならぬといふこ
 とを痛感いたしました。單に日滿支の経済「ブロック」のみを以てして
 はどうしても大東亜共栄圏の確立は出来ないといふことを現地に参
 つて察々感ぜさせられたのであります。然るにこのかれ／＼の認識
 に對して一方蘭印は只今申しましたやうに日本を指導者とする大東
 亜共栄圏の確立に對して非協力的態度を執つて居ります。どうして

1.3.3.0-1

2901 0267